

たばこ代替品の競争、米国で過熱

電子たばこが加熱式たばこより人気な米国だが



ペン型電子たばこ（ベイプ）は米国のニコチン製品市場で7%のシェアを占める

PHOTO: CARLO ALLEGRI/REUTERS

By Carol Ryan

2022年6月21日 15:51 JST

——投資家向けコラム「ハード・オン・ザ・ストリート」

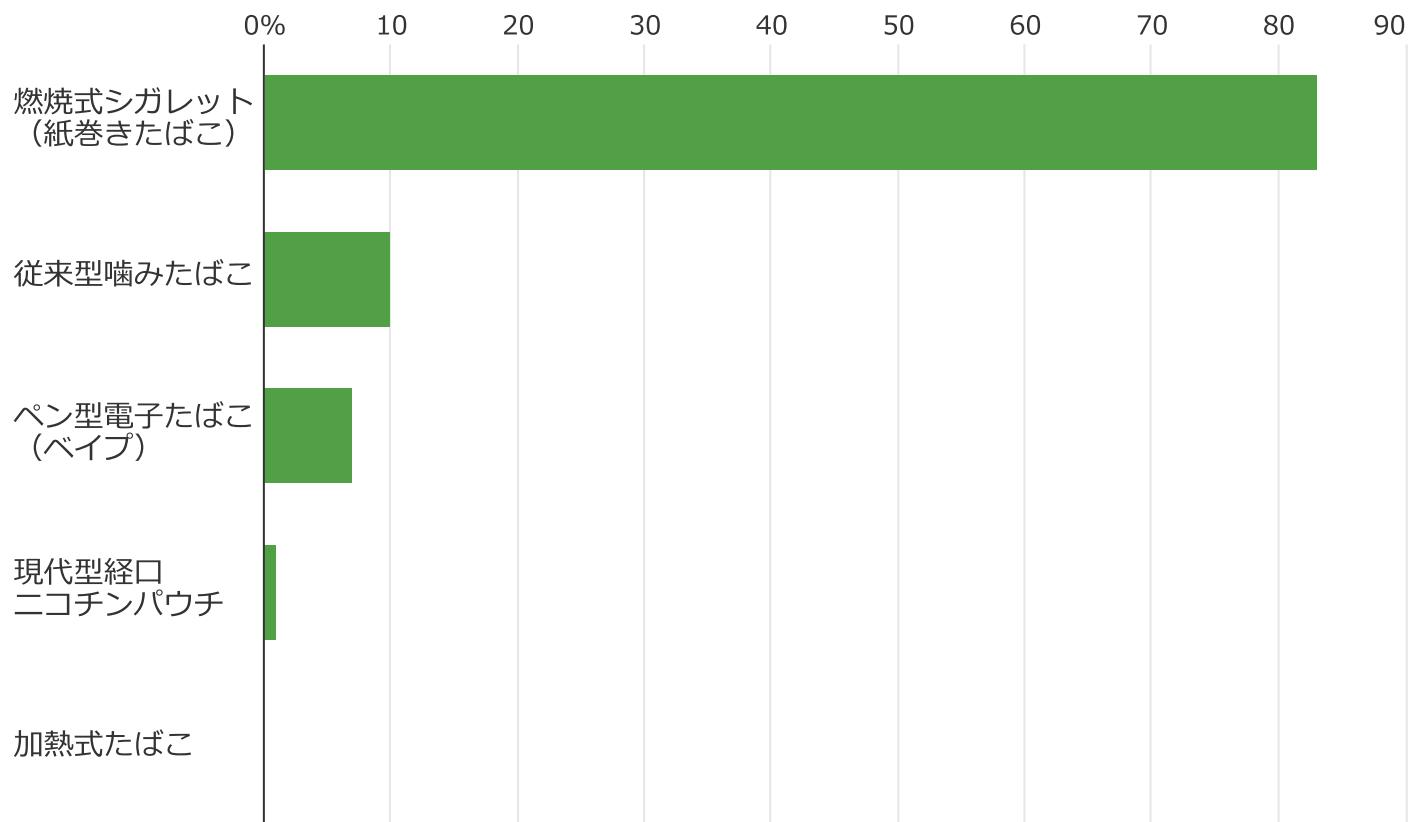
* * *

禁煙しようとしている米国人の選択肢は、ペン型電子たばこ（ベイプ）かニコチンパウチ、もしくは、もっと最近になって発売された加熱式たばこスティックのいずれかになる。どれが選ばれるかという点に、たばこ会社の社運がかかっている。

米国では現在、たばこ代替品としてはベイプが最も人気だ。米レイノルズ・アメリカンの親会社で、「ラッキーストライク」などのブランドを抱える英 ブリティッシュ・アメリカン・タバコ（BAT）は、最近行った決算発表の電話会見でこの傾向は今後も続くとの見通しを示し、米国で加熱式たばこ製品が大量に売れることはないと述べた。BATは米食品医薬品局（FDA）に加熱式たばこスティック「グロー（Glo）」の発売許可を申請中だが、同社幹部によると、これは米国での需要に強気な観測を持っているからというよりも、主に海外の規制当局への影響力を狙ったものだという。

無煙のシグナル

米国のニコチン製品、種類別シェア（金額ベース）



出所：ブリティッシュ・アメリカン・タバコ

BATがベイプを推すのには理由がある。同社の電子たばこ「ビューズ（Vuse）」はジュール・ラブズのブランド「ジュール（Juul）」を抜いて米国トップの電子たばこブランドとなっている。そして、加熱式たばこ事業については、同社のライバルであり、米国外で「マールボロ」ブランドを販売するフィリップ・モリス・インターナショナル（PMI）の方がはるかに事業規模が大きい。PMIは、スウェーデンのニコチンパウチメーカー、スウェディッシュ・マッチを160億ドル（約2兆1600億円）で買収する計画が完了すれば、やがて加熱式たばこの先駆け的製品「アイコス（iQOS）」を米国で展開するための販売網を持つことになる。

消費者の嗜好や現地の法令事情に応じて、それぞれの市場を支配する無煙たばこ製品は異なることがある。アイコスが大きな成功を収めた日本は、新たなイノベーションに対する消費者のオープンな姿勢に実績がある。ニコチンを含む電子たばこが禁じられていることも、PMIには有利に働いているはずだ。これに対し、米国では状況が逆だ。BATによると、ニコチン市場全体におけるベイプのシェアは7%と、ジン（Zyn）などの最新の経口ニコチンパウチ（1%）、加熱式たばこ（1%未満）を上回っている。

米国では10年ほど前から電子たばこが販売されており、そのことがシェアでリードしている理由の一部かもしれない。アイコスは2019年に発売されたばかりで、加熱式たばこというカテゴリーは米国の消費者にとってまだ馴染みが薄い。新型コロナウィルス感染症の流行や、BATとの特許権を巡る争いも、アイコスの展開が遅れている要因だ。

だが、タイミングがすべてではないようだ。米国の燃焼式たばこのニコチン濃度は高いので、ニコチソルトのヒットを再現するのは加熱式たばこよりも電子たばこの方が技術的に簡単なのだ。もっとも、アイコスのニコチン濃度は従来の燃焼式タバコに近いのだが。

また、ベイプ製品は米国で連邦税の優遇を受けている。加熱式たばこの連邦税はたばこと同額だが、電子たばこは非課税だ。UBSのデータによると、いつも約8ドルでマルボロのタバコ1箱を買っている喫煙者が、加熱式たばこスティックのアイコスに切り替えても支払う値段は変わらないが、BATの電子たばこ「Vuse Alto（ビューズ・アルト）」に変えれば6ドルで済む。



加熱式たばこの先駆け「アイコス」は日本で大きな成功を収めた

PHOTO: FABRICE COFFRINI/AGENCE FRANCE-PRESSE/GTETTY IMAGES

ただ、たばこの売り上げ減少が米国の歳入に及ぼす影響を相殺するため、政府がニコチン税の微調整を決定すれば、この価格差は続かない可能性がある。さらに、アイコスが有利な点はもう一つある。アイコスは、FDAが「有害化学物質への曝露低減たばこ製品」の表示を認可した数少ない非燃焼たばこ製品の一つだということだ。今のところ、ベイプブランドでこの修正リスク製品の分類を受けているものはない。

米国の電子たばこ市場は、見直し整備作業の真っ最中だ。あらゆるベイプブランドには、規制当局に販売継続のための申請書を提出することが求められている。メンソールなどのフレーバー付き電子たばこが承認されなかつた場合は、一部の喫煙者に切り替えを促すことが難しくなり、ベイプカテゴリーの成長は限定的なものになる可能性がある。

電子たばこは現在の米国市場ではトップを走っているが、規制や税の問題が落ち着くまで、たばこ大手が勝負できることは数多くある。